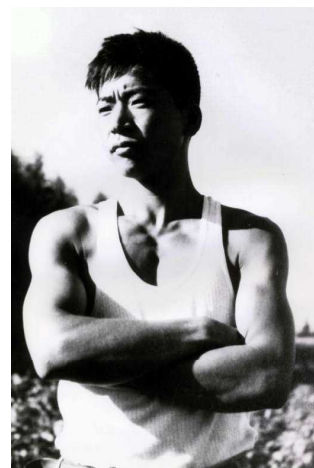


NHK朝の連続テレビ小説「なつぞら」で広瀬すずさん演じる主人公“なつ”に絵心を教える“山田天陽”。そのモチーフと言われる画家が十勝にいます。振興局なっちゃん隊が調べてみました。



“なつ”が出会った素敵な馬の絵を描く少年・山田天陽。



ここ十勝には山田天陽のモデルと言われ、農民でありながら画家として頭角を現し、32歳の若さでこの世を去った神田日勝という天才画家がいます。

神田日勝の一家は、終戦間近の1945年8月に鹿追村（当時）へ入植。実家の農業を継ぐ傍ら、19歳の時に平原社展に出品した『瘦馬』で朝日奨励賞を受賞後、身近な農耕馬の姿をベニヤ板に描いた作品等で数々入賞しました。

鹿追町の神田日勝記念美術館には、むき出しベニヤに馬の半身だけが描かれた代表作

『馬（絶筆・未完）』をはじめとする作品約100点が収蔵されています。



作品の前でペインティングナイフを持つ作者の姿に思いを馳せ、永遠に描かれることのない馬の全身像を想像するのも面白いのではないのでしょうか。